

第1回三重県地球温暖化対策実行計画推進委員会の概要について

1. 日時 平成26年9月30日(火) 13時30分～
2. 場所 三重県栄町庁舎第51会議室
3. 「三重県地球温暖化対策実行計画推進委員会」委員 9名

飯田 修	四日市地域環境対策協議会 代表 (パナソニックデバイスマテリアル四日市株式会社 管理部)
伊藤 周広	中部経済産業局資源エネルギー環境部 エネルギー対策課長
伊藤 信彦	一般社団法人三重県トラック協会 専務理事
小林 小代子	三重県食生活改善推進連絡協議会 会長
寺田 卓二	環境教育ネクスト・ステップ研究会代表 (元四日市中央工業高等学校長)
西村 統武	マックスバリュ中部株式会社 人事総務部長
朴 恵淑	三重大学 理事・副学長
人見 敏和	四日市市環境部 環境保全課長 (人見委員は代理者による出席)
遊佐 秀憲	中部地方環境事務所環境対策課長

※敬称略 50音順

4. 進行概要

(1) 事務局あいさつ

冒頭、委員会のスタートにあたって、事務局より「三重県地球温暖化対策実行計画推進委員会」についての説明と委員の委嘱をしました。

(2) 委員長及び副委員長の選出

委員長に朴 恵淑委員、副委員長に寺田 卓二委員が選出されました。

続いて朴恵淑委員長の進行により三重県地球温暖化対策実行計画の進捗状況について、審議が行われました。

(3) 事務局からの説明

三重県地球温暖化対策実行計画の進捗状況について次の①から③の内容を説明しました。

- ①温室効果ガスの排出状況
- ②温室効果ガス削減に向けた取組進捗状況
- ③今後の温室効果ガス削減に向けた取組方向

(4) 委員会からの主な意見

三重県地球温暖化対策実行計画は、計画策定段階当時に日本全体が温室効果ガス排出量を 25%削減する目標としていた国の施策と県独自の施策を推進することにより、10%削減（1990 年度比）する目標にしています。しかし、東日本大震災によってエネルギー情勢や日本全体の目標が変更された状況では、目標を達成することは難しいと予想されますが、温暖化対策が必要なことには変わりはないので、引き続き推進していく必要があります。

温室効果ガス削減取組の実施状況としては、実行計画に記載されている取組ごとに、「取組概要」、「成果と課題」及び「今後の取組方向」が取りまとめられています。また、県民力ビジョンや関連する個別計画等の施策評価の指標等で定量的に把握できるものを「関連指標」として記載されています。

こうした県における自主評価の方法については、今年度は初年度であり、おおむね妥当なものと考えられますが、次回の自主評価にあたっては、次年度の目標値を明らかにすることや課題や効果を吟味したうえで重点的に実施する施策を明らかにして、推進していく必要があります。

二酸化炭素排出量とエネルギー使用量の原単位の推移と相関関係を示していますが、改正省エネ法の施行により電気需要の平準化の推進が追加されています。これによりデータ処理方法が切り替わり、そのタイミングで二酸化炭素排出量とエネルギー使用量の相関関係が乖離することが予想されますので留意してください。

三重県版小規模事業者向け環境マネジメントシステム：M-EMS（ミームス）の認証事業所数は目標数値に達成していません。今後は、M-EMS 認証取得事業者による取得をした実際の感想やメリットを伝えるような手段により普及活動を進めていくことを検討してください。

省エネ機器や再生可能エネルギーは導入コストが高いことから、補助金などの支援があれば普及が促進するものと考えられます。